

UC-1 Engineer's Suite 概算・事業費計算

Operation Guidance 操作ガイダンス

本書のご使用にあたって

本操作ガイドは、主に初めて本製品を利用する方を対象に操作の流れに沿って、操作、入力、処理方法を説明したものです。

ご利用にあたって

ご使用製品のバージョンは、製品「ヘルプ」のバージョン情報よりご確認ください。

本書は、表紙に掲載のバージョンにより、ご説明しています。

最新バージョンでない場合もございます。ご了承ください。

本製品及び本書のご使用による貴社の金銭上の損害及び逸失利益または、第三者からのいかなる請求についても、弊社は、その責任を一切負いませんので、あらかじめご了承ください。

製品のご使用については、「使用権許諾契約書」が設けられています。

※掲載されている各社名、各社製品名は一般に各社の登録商標または商標です。

目次

5	第1章 製品概要
5	1 UC-1 Engineer's Suiteの概要
8	2 UC-1 Engineer's Suite 概算・事業費計算の概要
11	3 バージョン及び改良点
12	4 フローチャート
13	第2章 操作ガイダンス(概算・事業費計算)
13	1 概算事業費の流れ
13	1-1 基本的な操作
13	1-2 基本情報
15	1-3 テンプレート橋梁数
15	1-4 事業費テンプレート更新
15	1-5 事業費①
17	1-6 用地補償費②
17	1-7 単価リスト
18	1-8 経費設定
18	2 印刷/出力
19	3 データ保存
20	第3章 操作ガイダンス(詳細設計工事発注用積算)
20	1 積算の流れ
20	1-1 基本的な操作
20	1-2 基本条件
22	1-3 直接工事費
37	1-4 間接工事費
39	1-5 一般管理費
40	2 出力
40	2-1 総括表
40	2-2 印刷/出力
41	3 データ保存
42	第4章 積算関連設定
42	1 設計書の取込み
43	2 UC-1スイート積算連動インポート
44	3 概算工費
45	4 スイート建設会計との連携

第1章 製品概要

1 UC-1 Engineer's Suiteの概要

UC-1エンジニアスイートとは、設計CADソフトウェアであるUC-1シリーズ各製品のセット版です。

UC-1エンジニアスイートでは、単独製品の機能の他に次項に挙げる機能の追加および強化を行っています。

【製品機能の追加および強化】

(1)クラウド機能

データファイルをクラウドに保存等、クラウドを利用したクラウドファイル共有機能、クラウドバックアップ連携機能、ファイル転送機能を標準サポートします。

(2)2DCAD機能

図面作成機能を有しているスイート製品に対して、2次元汎用CADの「UC-Draw」の機能を有したツールにより多様な編集機能、出力等が可能です。

(3)3D配筋機能

図面作成機能を有するスイート製品では、「3D配筋CAD」機能を有したツールにより3D表示だけでなく、編集や干渉チェックが可能です。

(4)IM機能

「3D配筋CAD」機能を有する製品から「3D配筋CAD」のツールよりIFCデータファイル出力機能が可能です。今後、BIM (Building Information Modeling) , CIM (Construction Information Modeling) 機能、IFC (Industry Foundation Classes) 変換の強化を図ります。

(5)サポートチェック機能の強化

スイート製品は、入力順データチェックリスト出力を標準サポートします。

【クラウドファイル共有連携】

本プログラムをFORUM8の「UC-1 for SaaS ファイル共有サービス」と連動させる場合の設定を行います。

UC-1 for SaaSファイル共有サービスとは

ファイル共有サービスは、従来よりユーザー様に無償でご提供しておりますファイル転送サービスを拡張した別サービスで、従来機能に加えてWebストレージとしての機能を備えたファイル共有のためのサービスです。

本サービスは、UC-1スイート製品と連動し製品から直接ファイル进行处理することができます。

〔設定を開く〕

クラウドファイル共有の設定画面を開きます。

[アカウント設定] タブ

本サービスのサーバにアクセスするためのアカウント情報を設定します。
本機能を使用するためには、必ず設定する必要があります。

UC-1 for SaaSのアカウント情報をご入力ください。

UC-1スイート製品をご購入いただいた場合、ファイル共有サービスのライセンスが付与されております。

アカウント情報入力後、[設定を保存して接続テスト] をクリックし、「接続できました」の表示が確認出来ればアカウント設定は完了です。設定に誤りがある旨が表示される場合、まず、アカウント設定の入力内容をご確認ください。
アカウント設定に誤りがなければ、[ネットワーク設定] タブでネットワーク接続の設定を変更します。

[ネットワーク設定] タブ

本サービスのサーバにアクセスする際のネットワークの設定を行います。

インターネットへのアクセスにプロキシサーバを経由する必要がある場合に設定を行なって下さい。

[接続タイムアウト]

通信の応答がなくなってから処理を中断するまでの秒数を指定します。

[○プロキシサーバを使用しない]

本プログラムのネットワーク接続時にプロキシサーバを経由せずに接続を試みます。
社内にプロキシサーバ、ファイアウォールなどが設置されていると、接続できない場合があります。

[○システムのプロキシ設定を使用する]

ネットワーク接続時に システムで設定されているプロキシサーバを使用します。
認証が必要なプロキシサーバの場合、接続時に入力します。

[○プロキシを手動で設定する]

プロキシサーバのホスト名、ユーザ名、パスワード、ポート番号を手動で設定します。
対応している認証方法は、認証なし、BASIC認証の2種類になります。

[Webサイトを開く]

ファイル共有サービスのWebサイトを表示します。

Webサイトでは、現在共有されているファイルの確認と検索、ファイルのダウンロード、共有されているファイルの転送などが行えます。

※注意

適切なアカウント情報が入力されていない場合、Webサイトは表示されません。

[ファイルを転送]

ファイル共有サービスのサーバに編集中的数据を保存し、本サービスWebサイトのファイル転送ページを開きます。
Webサイトが開きましたら、メールで保存したデータのダウンロードリンクを他の方にご案内いただけます。
本サービスを使用致しますと、メールでの送信が困難な大容量（1ファイル最大2GB）のファイルを簡単に送信することができます。

【クラウドバックアップ連携】

本プログラムをFORUM8の「UC-1 for SaaS クラウドデータバックアップサービス」と連動させる場合の設定を行います。

UC-1 for SaaS クラウドデータバックアップサービスとは

PCに常駐するクライアントプログラムにより、定期的にFORUM8のバックアップサーバにアップロードを行い、重要なファイルの自動バックアップを行うことができるサービスです。

※注意

本プログラムとサービスを連動させる場合、事前にクラウドバックアップサービスのクライアントプログラムをインストールし、一度以上起動しておく必要があります。

クライアントプログラムはUC-1 for SaaS グループウェアから、本サービスのWebサイトにログインしてダウンロードいただけます。

[開いている対象をファイルに追加]

現在編集中的数据を、クラウドバックアップの対象ファイルとして指定します。

バックアップ対象に追加されたファイルは、クラウドバックアップサービスクライアントにより指定されたスケジュールで自動バックアップされます。

■「詳細設計工事発注用積算」

「詳細設計工事発注用積算」モードにおいては、

- ①国土交通省土木工事積算基準
- ②国土交通省土木工事標準積算基準書

「共通編」「河川・道路編」のみに対応

に準拠した公共土木工事における積算を行うプログラムです。

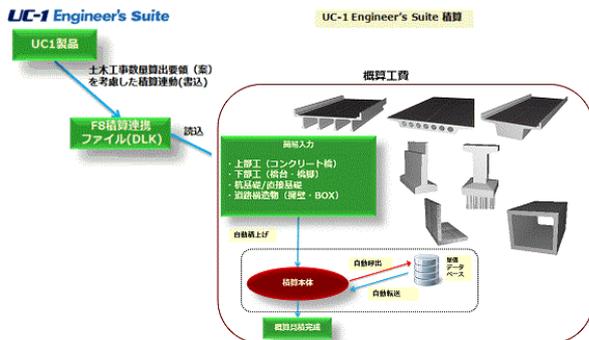
※施工パッケージ単価および施工単価は、令和6年度に対応しています。

- ①電気通信設備共通設備工及び②電気通信編には対応しておりません。

建設物価調査会及び経済調査会の単価データ（平均値、最安値）を使用した積上げが可能です。
単価更新は年4回（10月、1月、4月、7月）を予定しています。

- ・国土交通省土木工事積算基準
 - ・国土交通省土木工事標準積算基準書
 - ・施工パッケージ型対応
 - ・設計書の取込み
 - ・合算設計書、合算経費対応
 - ・電子納品出力対応（EXCEL、PDF）
 - ・単価検索対応（建設物価、積算資料）
 - ・市場単価対応：（「単価データベース」－「施工単価」－「市場単価」は、「国土交通省土木工事標準積算基準書（共通編）」を参考に用意しており、土木施工単価／土木コスト単価ではありません）
 - ・UC-1エンジニアスイート製品との連携（工事内訳書）
 - ・スイート建設会計（<https://construction-acc.forum8.co.jp/>）への連携に対応
- ※スイート建設会計への連携手順はP.45を参照してください。

・概算工費



- ・逆算機能（工事価格シュミレーション）
- ・「工期設定支援システム」への連携対応
- ・日当り作業量算出対応

適用基準及び参考文献

【適用基準】

国土交通省土木工事積算基準		一般財団法人 建設物価調査会	本資料内では、「黄本」と呼ぶ。
国土交通省土木工事標準積算基準書		一般財団法人 建設物価調査会	本資料内では、「赤本」と呼ぶ。

【その他の参考及び文献】

土木工事積算基準マニュアル		一般財団法人 建設物価調査会	本資料内では、「積算マニュアル」と呼ぶ。
月刊 建設物価	年間数回の最新	一般財団法人 建設物価調査会	本資料内では、「月刊 建設物価」と呼ぶ。

建設工事で使用する各種資機材の価格や工事費、賃貸料金を全国の各都市で毎月調査し、その結果を収録している総合物価版。建設業界注目の特集記事や建設資材関連の統計資料も掲載。

季刊 土木コスト情報	年間数回の最新	一般財団法人 建設物価調査会	本資料内では、「季刊 土木コスト情報」と呼ぶ。
------------	---------	----------------	-------------------------

市場の取引実態に基づく土木工事、下水道工事、地質調査の市場価格を工種別、規格別、都道府県別にとりまとめた季刊情報誌。2013年4月(春)号からは、これまでの市場単価に加え、維持補修系工種を中心に実態調査に基づく歩掛、材料費、公表されている機械経費、労務費から積上算出した「土木工事標準単価」を新規に掲載しています。

月刊 積算資料	年間数回の最新	一般財団法人 経済調査会	本資料内では、「月刊 積算資料」と呼ぶ。
---------	---------	--------------	----------------------

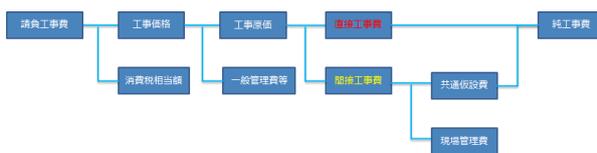
全国の調査網を駆使し、建設に関わる資材価格・労務単価・副産物処理費・各種料金を流通・取引数量・都市別に掲載。巻頭では、主要資材の価格の推移や市況、主要経済統計を毎月掲載。特集では、建設行政の寄稿文や、本文未掲載の資材特集や、タイムリーな建設情報の解説を掲載。

季刊 土木施工単価	年間数回の最新	一般財団法人 経済調査会	本資料内では、「季刊 土木施工単価」と呼ぶ。
-----------	---------	--------------	------------------------

土木工種、下水道工種、港湾工種、地質調査の市場単価を掲載。建設機械器具・仮設材の賃貸料金を掲載。

工事費

請負工事費は、次のような構成となっています。



費用名称	内容
請負工事費	工事価格と消費税等相当額の和で、請負にふさわしい工事の施工にあたり、請負業者が通常必要とすると考えられる全ての費用。
工事価格	工事原価と一般管理費等の和で、請負工事費のうち消費税を含まない価格。
消費税相当額	= 工事価格 × 税率
工事原価	直接工事費と間接工事費の和で、工事現場における経費で処理されると考えられる全ての費用の総称。
一般管理費	工事施工にあたる企業の継続運営に必要な費用。 = 工事原価 (Cp) × 一般管理費等率 (Gp)
直接工事費	工事原価のうち、間接工事費を除いた費用。
間接工事費	原則として工事的物でない可搬物を受けない現場の管理費用。 各工事部門共通の直接工事以外の工事費及び経費として、共通仮設費と現場管理費に分類される。
共通仮設費	運搬費、準備費、事業損失防止施設費、安全費、役務費、技術管理費、営繕費
現場管理費	労務管理費、安全訓練費に要する費用、租税公課、保険料、従業員給料手当て、退職金
純工事費	直接工事と共通仮設費の和。

新土木積算体系(工事工種体系ツリー)

新土木工事積算体系とは

新土木積算工事積算体系は、設計書の総括表や内訳書について、階層数や階層の定義、細分化などの構成方法、用語名称や数量単位などの表示方法を工種ごとに標準化・規格化することをいい、設計者によりまちまちとなっていた設計書の構成を統一化し、これにより契約内容の明確化、積算及び検収の合理化・容易化を図るものです。

階層の定義

積算体系の整備は体系や階層の定義が重要であり、内容を下記の表に示します。主に工事区分、工種、種別、細別の項目を使います。

レベル	名称	定義・内容	例
0	事業区分	事業執行上の区分	河川改修
1	工事区分	発注側を考慮してレベル0を分割したもので、通常1件の工事として発注される工事	築堤・護岸
2	工種	レベル1を構成する要素のうち、一定の構造を施工するための一連作業の名称	地盤改良工
3	種別	体系全体の見直しをよくするため、レベル2と4をつなぐレベル区分	表層安定処理工
4	細別	工事を構成する基本的な単位目的若しくは単位仮設物である	安定処理
5	規格	レベル4を構成する材料等の客観的な材質・規格並びに契約上明示する条件	N24-8-25 コンクリート規格
6	積算要素	レベル4の価格算定上の構成要素であって、基本的には契約上明示しない	ダンプトラック運搬

<従来の積算作業の状況>

- ①積算実務の経験不足で工事の流れが想定できず積算が行えない
 - ②担当者間の経験や認識の相違により積算内容に相違が生じる
 - ③同一用語が異なる箇所に発生する
 - ④単位の使い方が不統一
- この事を踏まえて、国土交通省が基本方針を定義しています。

<新土木工事積算体系の基本方針>

- ①積算内容を発注者及び受注者に対しわかりやすいものにする
- ②誰が積算しても標準化された同じような積算とする
- ③工事目的物を明瞭にする
- ④数量総括表、仕様書等を一貫した統一したものにする

用語の統一・標準化

積算体系の整備は、内訳書の構成方法の標準化を図っていますが、各要素を示す用語についても、これまでは標準的な規定がなく、河川・道路等の部署によっては、例えば「掘削」と「切土」のように、同じ意味のものに対して異なる用語を用いていました。

このように用語の統一・標準化がなされていないと、工事目的物に対する認識が積算担当者と他者では一致しない場合が考えられ、積算内容が不明確であったり、施工者の見積業務や設計者の数量算出業務が複雑になります。

このため、積算体系では使用する用語についても統一・標準化を目指しています。積算体系の用語は、数量計算書・設計書に使用するばかりでなく、積算にまつわる、あらゆるものに共通的に適用されるものとなります。

用語の標準化に当たっては、個々の用語に含まれる内容、体系での階層的な定義、数量単位を一義的に規定するものとし、これを用いて体系を構築することにより、工事目的物を明確化しています。

3 バージョン及び改良点

【Ver.1 機能拡張】

- (1)概算・事業費計算の機能に対応しました。
- (2)作業日当り標準作業量(令和6年度)に対応しました。
- (3)国土交通省土木工事積算基準(令和6年)に対応しました。
- (4)国土交通省土木工事標準積算基準書(令和6年)に対応しました。
- (5)新土木積算体系改訂(令和6年)に対応しました。
- (6)建設物価調査会(建設物価, 土木コスト情報)および経済調査会(積算資料, 土木施工単価)の基礎単価 2024年10月号に対応しました。

4 フローチャート

■概算・事業費計算



■詳細設計工事発注用積算



第2章 操作ガイドンス(概算・事業費計算)

1 概算事業費の流れ

1-1 基本的な操作

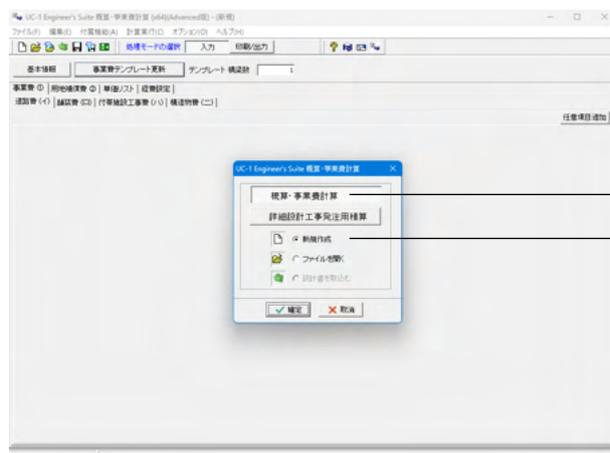
No.	名称(工種)	名称(種別)	名称(細目)	名称(規格)	単位	数量	単価(円)
1	土工					---	---
2		擁壁工				---	---
3			擁壁	金付	m3	---	---
4				土砂(400)	m3	35028	870
5				軟弱(400)	m3	35028	1168
6				硬弱(400)	m3	16119	2344
7		擁土	運搬距離 21.5m以上(500)		m3	44559	2538
8			運搬距離 51.5m以上(500)		m3	44559	2568
9		盛土工				---	---
10			盛土	金付	m3	1947	3000
11		法面整形工				---	---
12			法面整形	切土部金付	m2	---	---
13				土砂(400)	m2	3957	790
14				軟弱(400)	m2	3957	1048
15				硬弱(400)	m2	1829	1048
16			法面整形	盛土部金付	m2	1950	650
17		法面工				---	---
18		切土	厚層基材付付工	t15cm	m2	7215	4018
19			モルタル付付工	t15cm	m2	1829	4068
20		盛土	人工盛土工		m2	1950	610
21		排水工			m	---	---
22		路側排水工			m	12000	14800
23		排水	土工部		m	6895	80280
24			橋梁部		m	166	10780

下記の手順で入力を行います。

- ①「基本情報」及び事業費に含まれる橋梁数を設定します。
- ②事業費テンプレート更新ボタンを押下することで、道路設計に必要な入力が展開されます。
- ③道路費、舗装費、付帯施設工事費、構造物費などの事業費や用地補償費別に用意された項目の概略数量を入力します。
- ④「印刷／出力」ボタンを押下する事で、事業全体規模の概算費用の報告書を作成することができます。

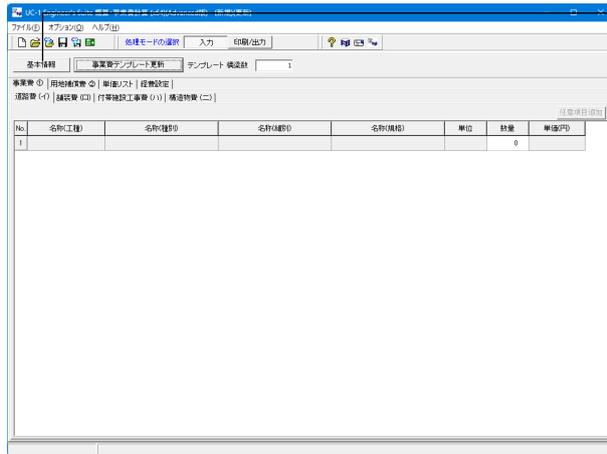
1-2 基本情報

本ガイドンスでは、サンプルデータ：SampleG1.F3Aを再現します。
各入力項目の詳細については製品の【ヘルプ】をご覧ください。

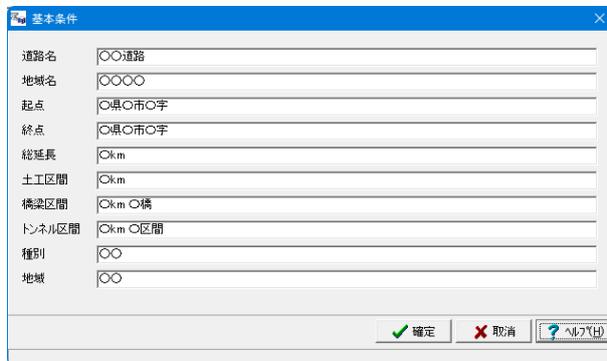


「UC-1 Engineer's Suite 概算・事業費計算」を立ち上げると、選択画面が表示されます。

「概算・事業費計算」「新規作成」にチェックを入れ、「確定」を選択します。



「基本情報」タブをクリックします。



概算事業費の報告書に記載する諸条件を設定します。ここで設定した名称は、概算事業費の集計には影響しません。報告書(計算書)の該当項目の情報として出力される条件になります。今回入力に変更はありません。

道路名

概算事業費の道路名を設定してください。

地域名

概算事業費の地域名を設定してください。

起点

概算事業費の起点名を設定してください。

終点

概算事業費の終点名を設定してください。

総延長

概算事業費の総延長名を設定してください。

土工区間

概算事業費の土工区間名を設定してください。

橋梁区間

概算事業費の橋梁区間名を設定してください。

トンネル区間

概算事業費のトンネル区間名を設定してください。

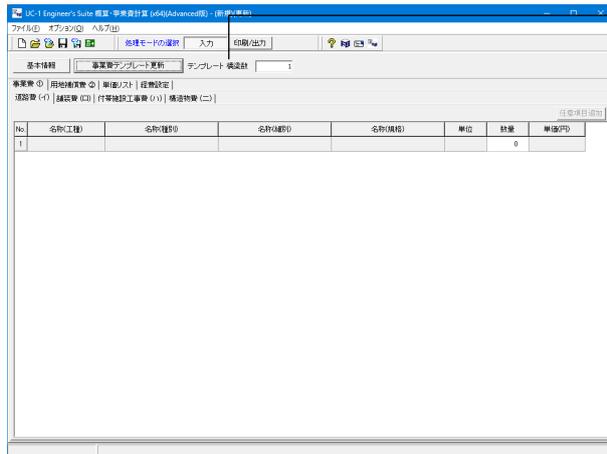
種別

概算事業費の種別名を設定してください。

地域

概算事業費の種別名を設定してください。

1-3 テンプレート橋梁数



テンプレート橋梁数を設定します。
<1>

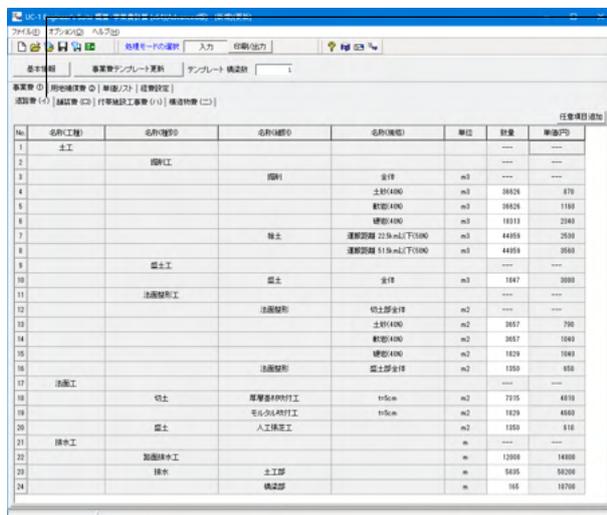
1-4 事業費テンプレート更新



「事業費テンプレート更新」ボタンを押下することで、道路設計に必要な入力が展開されます。

1-5 事業費①

1-5-1 道路費(イ)



「事業費①」-「道路費(イ)」タブを押下し、概略数量を入力します。

No.	数量
1	---
2	---
3	---
4	36626
5	36626
6	18313
7	44859
8	44859
9	---
10	1847
11	---
12	---
13	3657
14	3657

第2章 操作ガイドンス(概算・事業費計算)

No.	名称(工種)	名称(項目)	名称(単位)	単位	数量	単価(円)	
1	土工				---	---	
2		掘削工			---	---	
3			掘削	全件	m3	---	
4			土留(400)	m2	59629	870	
5			鉄筋(400)	m2	59629	1100	
6			鉄筋(400)	m2	10111	2000	
7			雑土	運搬距離 21.9m\leq工下1000	m3	44059	2000
8				運搬距離 51.9m\leq工下1000	m3	44059	3000
9		盛土工			---	---	
10			盛土	全件	m3	1047	3000
11		法面整形工			---	---	
12			法面整形	切土部全件	m2	---	---
13			土留(400)	m2	2057	790	
14			鉄筋(400)	m2	2057	1040	
15			鉄筋(400)	m2	1029	1040	
16			法面整形	盛土部全件	m2	1350	850
17		法面工			---	---	
18			切土	経路裏方付付工	m ²	7175	4000
19			毛土(外付工)	m ²	1029	4400	
20			盛土	人工積土工	m ²	1050	910
21		排水工			m	---	---
22			排水管(中工)	m	12000	14000	
23			排水	土工部	m	5035	6000
24				構造部	m	165	10700

No.	数量
15	1829
16	1350
17	---
18	7315
19	1829
20	1350
21	---
22	12000
23	5835
24	165

1-5-2 舗装費(口)

No.	名称(工種)	名称(項目)	名称(単位)	単位	数量	単価(円)	
1	舗装工				---	---	
2		表層(普通)	密砕石アスコン	t-5cm	m2	84036	1200
3		表層(普通)	再生砕石アスコン	t-5cm	m2	84036	1400
4		上層(密砕石)	粗砕石	t-15cm	m2	84036	400
5		下層(密砕石)	再生クラッシュ	t-15cm	m2	84036	1100
6		構造層	密砕石アスコン	t-4cm	m2	1403	1420
7		表層(中速)	再生砕石アスコン	t-4cm	m2	25700	1100
8		表層(中速)	再生クラッシュ	t-6cm	m2	25700	2000

「事業費①」-「舗装費(口)」タブを押下し、概略数量を入力します。

No.	数量
1	---
2	84036
3	84036
4	84036
5	84036
6	1403
7	25700
8	25700

1-5-3 付帯施設工事費(ハ)

No.	名称(工種)	名称(項目)	名称(単位)	単位	数量	単価(円)	
1	付帯施設工				---	---	
2		中央空調		t-5cm	m	6000	94200
3		煙道			m	6000	7000
4		防錆網	ガーレール		m	11670	9200
5		立入禁止標	全標型		m	12000	7000
6		遮光器			m	6000	9300
7		可変式遮光器			m	11670	4200
8		監視カメラ			m	5035	5200

「事業費①」-「付帯施設工事費(ハ)」タブを押下し、概略数量を入力します。

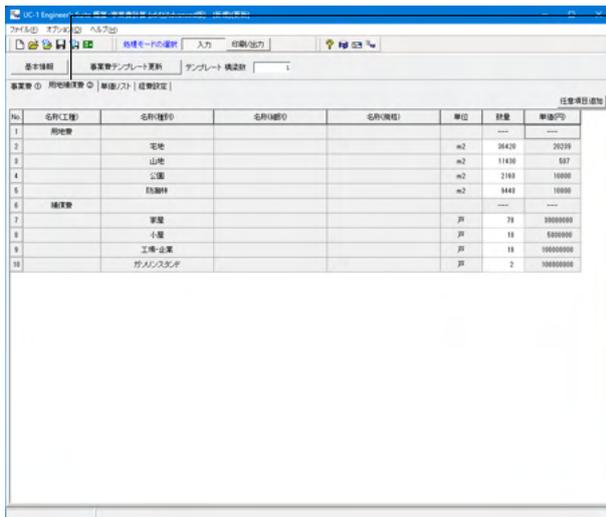
No.	数量
1	---
2	6000
3	6000
4	11670
5	12000
6	6000
7	11670
8	5835

1-5-4 構造物費(二)



「事業費①」-「構造物費(二)」タブを押下し、概略数量を入力します。
今回入力に変更はありません。

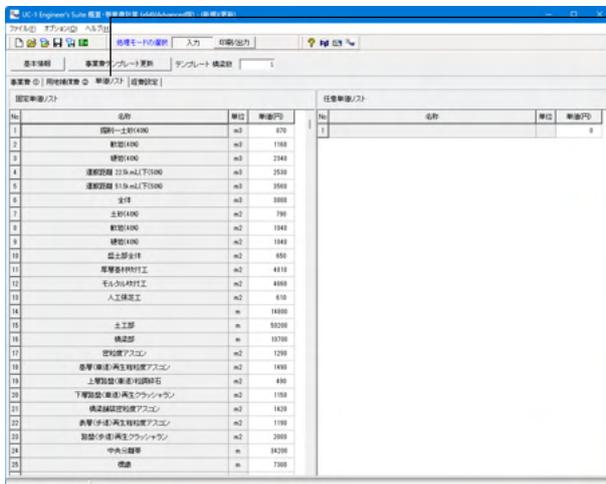
1-6 用地補償費②



「用地補償費②」タブを押下し、概略数量を入力します。

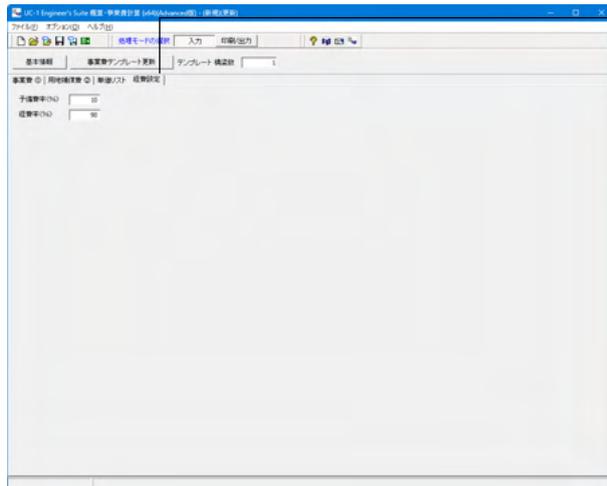
No.	数量
1	---
2	36420
3	11430
4	2160
5	9440
6	---
7	78
8	10
9	18
10	2

1-7 単価リスト



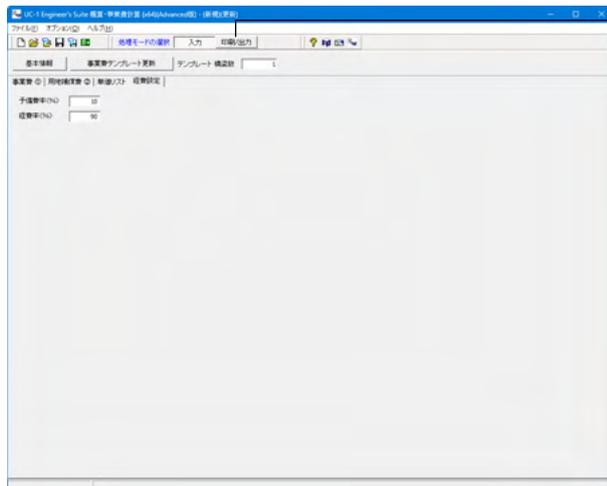
「単価リスト」タブを押下し、概算工費の各項目単価を設定します。あらかじめ初期値は設定していますが、必ず確認し、地域で適切価格をしてください。
今回入力に変更はありません。

1-8 経費設定

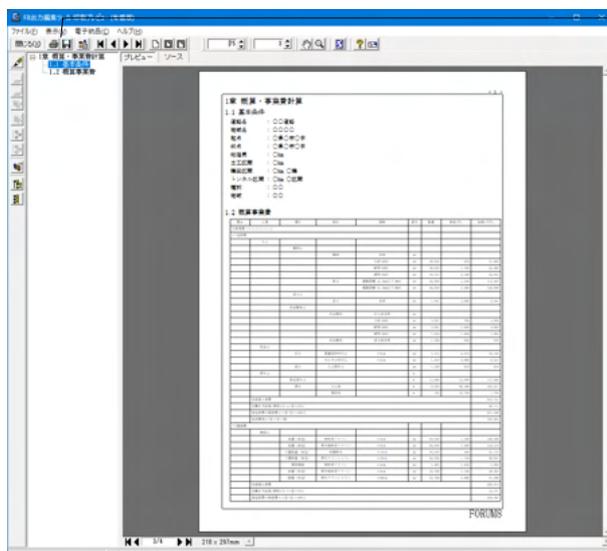


「経費設定」タブを押下し、予備費率と経費率を設定します。今回入力に変更はありません。

2 印刷/出力

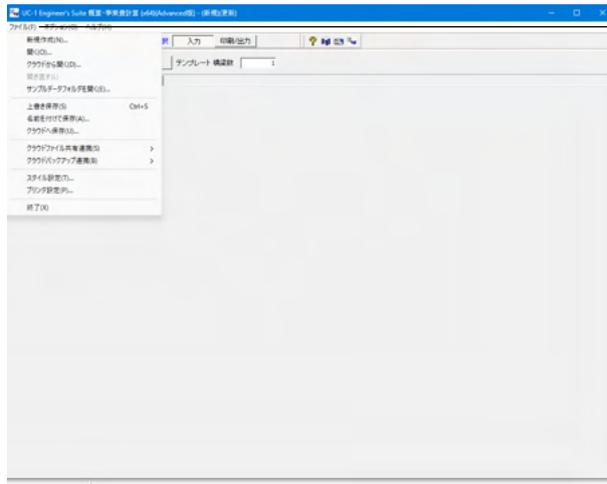


「印刷／出力」ボタンを押下する事で、事業全体規模の概算費用の報告書を作成することができます。



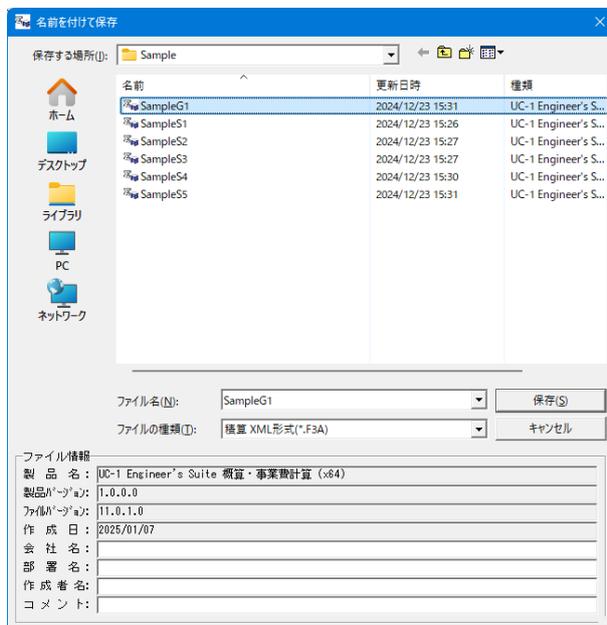
印刷・保存を行う場合は、上部のアイコンをクリックします。確認が済みましたら、出力項目の選択画面「閉じる」ボタンをクリックします。

3 データ保存



「ファイル」をクリックします。

「名前を付けて保存」またはツールバーより、「上書き保存」をクリックします。
ファイル名に名前を入力し、「保存」をクリックします。



編集中のデータに新しい名前を付けて保存します。

第3章 操作ガイドンス(詳細設計工事発注用積算)

1 積算の流れ

1-1 基本的な操作

【新入力形式の場合】



メイン画面のツリー項目、階層が表示されます。
 新入力形式と旧入力形式の切り替えは、メニュー「オプション」→「動作環境の設定」画面の「入力モード」を新形式とすることで行います。
 設計データ毎に本データは保持しています。

【旧入力形式の場合】



メイン画面のツリー項目にマウスカースルを合わせてダブルクリックすると、入力画面が表示されます。

- ・基本条件
- ・直接工事費
- ・間接工事費
- ・一般管理費

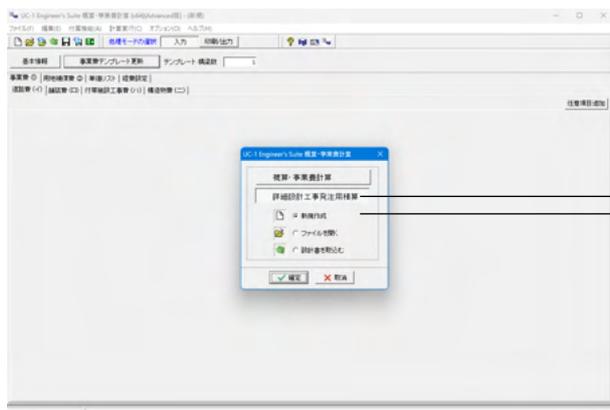
の入力を全て完了(緑状態)にします。その後、印刷/出力をクリックして、印字項目を選択し、プレビューを実行します。印字内容を確認し、そのまま印刷を行う事もできます。また、その内容を別のファイル形式(エクセル、ワード、PDF)に出力する事もできます。

1-2 基本条件

本ガイドンスでは、サンプルデータ：SampleS1.F3Aを再現します。

※SampleS1.F3Aは積算マニュアル(H30)P1362~を参考に作成しているため、最新版での単価や表記に相違がある場合がございます。ご了承ください。

各入力項目の詳細については製品の【ヘルプ】をご覧ください。



「UC-1 Engineer's Suite 概算・事業費計算」を立ち上げると、選択画面が表示されます。

「詳細設計工事発注用積算」「新規作成」にチェックを入れ、「確定」を選択します。

基本条件

事業区分: 全事業 (河川 海岸 砂防 ダム 道路 公園)

工事名称: 橋梁下部工事設計書

工事場所: ○○市○○地先

工事内容: 下部工:鋼管杭基礎逆T式橋台2基

工事期間: 2022/10/01 ~ 2022/10/31

年度: 2022年

経費の算定方法: R5年準拠

現場環境改善費の計算: 現場環境改善費の地域選択 (直接指定 自動計算)

施工地域区分(共通仮設費、現場管理費): 大都市(1)を考慮する

施工地域・工事箇所区分(共通仮設費、現場管理費): 一般交通影響有り(1)

現場管理費率の補正: 直接指定 補正率 33.21 (%)

熱中対策の現場補正用: 工期補正係数 1.20

一般管理費の計算: 直接指定 自動計算

契約保証の補正(一般管理費): ケース1(発注者が金銭的保証を必要とする場合)

被災三県・熊本・広島の間接工事費日当り作業量の補正係数: 考慮しない 考慮する

共通仮設費の補正係数: 1.500 被災三県 福島

現場管理費の補正係数: 1.200 熊本

日当り作業量の補正係数: 0.900 広島

工種区分(共通仮設費、現場管理費): 河川工事 道路維持工事 河川・道路構造物工事 河川維持工事 海岸工事 共同溝工事(1) 道路改良工事 共同溝工事(2) 鋼橋架設工事 トンネル工事 PC橋工事 下水道工事(1) 舗装工事 下水道工事(2) 砂防・地すべり等工事 下水道工事(3) 公園工事 下水道工事(4) 電線共同溝工事 コンクリートダム 橋脚ボックス工事 フィルダム 橋梁保全工事

推奨の取扱い: 号番号の振り直し(発生順番) 号番号の振り直し(階層階番) 直接指定

共通単価表を登録

確定 取消 ヘルプ

基本条件の入力画面が表示されます。
下記の通り入力します。

<事業区分:全事業>
<工事名称:橋梁下部工事設計書>
<工事場所:○○市○○地先>
<工事内容:下部工:鋼管杭基礎逆T式橋台2基>
<工事期間:2022/10/01-2022/10/31>
<年度:2022年>
<経費の算定方法:R5年準拠>
<現場環境改善費の計算:直接指定>
<施工地域・工事箇所区分:一般交通影響あり(2)>
<現場管理費率の補正:直接指定:33.21%>
<工種区分(共通仮設費・現場管理費):河川・道路構造物工事>

確定ボタンをクリックします。

端数処理

端数処理の取扱い

対象箇所	止め	丸め種類
数量	小数点3桁	切り捨て
単価	小数点2桁	切り捨て
金額	小数点2桁	切り捨て
間接工事費1	万円単位	切り捨て
間接工事費2	千円単位	切り捨て
間接工事費3	千円単位	切り捨て
標準作業日数	小数点2桁	四捨五入

間接工事費1: 共通仮設費の率計上の金額
間接工事費2: 現場管理費の金額
間接工事費3: 現場環境改善経費の金額

確定 取消 ヘルプ

端数処理

端数処理の取り扱いについて設定します。

対象箇所	止め	丸め種類
数量	小数点3桁	切り捨て
単価	小数点2桁	切り捨て
金額	小数点2桁	切り捨て
間接工事費1	万円単位	切り捨て
間接工事費2	千円単位	切り捨て
間接工事費3	千円単位	切り捨て
標準作業日数	小数点2桁	四捨五入

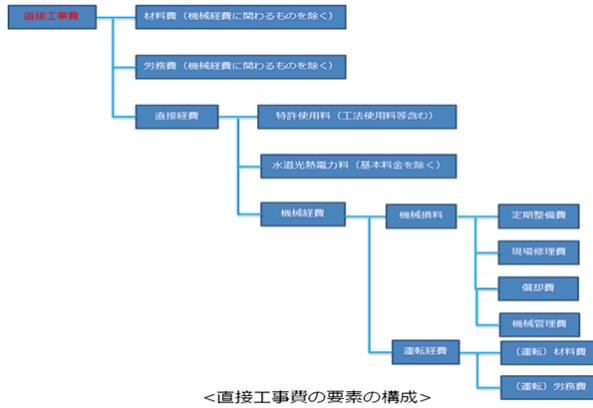
確定ボタンをクリックします。

入力

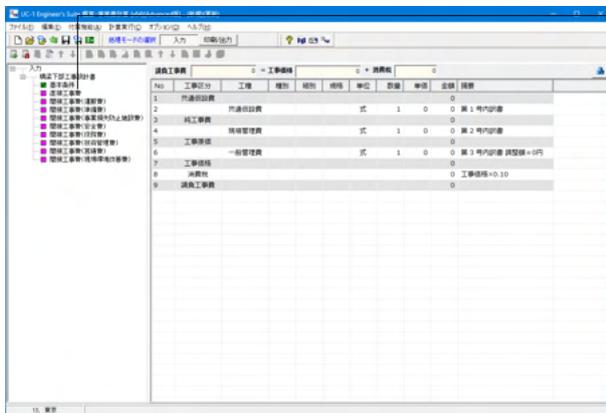
No	工事区分	工種	種別	単位	数量	単価	金額	備考
1	共通仮設費			式	1	0	0	第1号内訳書
2	共通仮設費			式	1	0	0	第2号内訳書
3	共通仮設費			式	1	0	0	第3号内訳書
4	現場管理費			式	1	0	0	第1号内訳書
5	現場管理費			式	1	0	0	第2号内訳書
6	現場管理費			式	1	0	0	第3号内訳書
7	現場管理費			式	1	0	0	第1号内訳書
8	現場管理費			式	1	0	0	第2号内訳書
9	現場管理費			式	1	0	0	第3号内訳書

入力画面へと移ります。

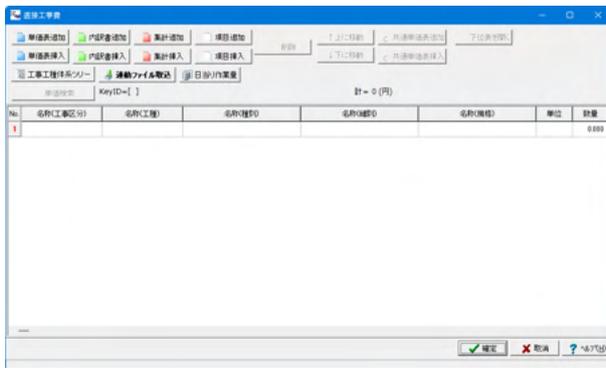
1-3 直接工事費



直接工事費の構成は、図の通りです。



ツリーの「直接工事費」をクリックします。



左のような画面が現れます。名称～属性までを入力することが可能です。



工事費用を本画面で積み上げていきます。[内訳書]及び[単価表]は下位表を保持でき、最大5階層目まで入力が可能です。[項目]は下位表を保持できません。

内訳書>単価表>項目の関係になっています。単価表の中に内訳書は作成不可、項目の中に単価表は作成不可となります。

単価及び歩掛のデータベースを用意(⇒単価検索ボタン)していますので、単価検索画面の施工単価、基礎単価、施工パッケージ型単価から、必要な項目を積算本体側に転送する事で追加(更新)する事ができます。

ある行(例えば1行目)の積上げが完了した時点で、直接工事費の画面を確定する事を推奨します。(更に安全に管理する場合は、ファイルとして保存を定期的に行うと便利です。)

No.	名称(工事区分)	名称(工程)	名称(種別)	名称(材料)	単位	数量
1	橋梁下部				式	1.00
2		運搬土工			式	1.00
3			掘削工		式	1.00
4			築付盛土工		式	1.00
5		橋台工			式	1.00
6			作業土工		式	1.00
7			照付土工		式	1.00
8			橋台転圧工(A)	鋼管枕 30mmφ×24m埋入径22	本	36.00
9					式	1.00
10			建T式橋台	H4-80m 24-0-25	m3	553.01
11			鉄筋工	SD45 D13 10m未満	t	1.13
12			鉄筋工	SD45 D16~18 10m未満	t	4.15
13			橋台転圧工(A)		式	1.00

積上げ項目の入力操作について

挿入、削除、上下移動時の注意点:入力表では現在選択されている箇所が、左のようにNo.の部分が赤く表示されます。

単価表追加

最後の行に単価表を追加します。

単価表挿入

指定行に単価表を挿入します。

内訳書追加

最後の行に内訳書を追加します。

内訳書挿入

指定行に内訳書を挿入します。

集計追加

最後の行に集計の行を追加します。

集計挿入

指定行に集計の行を挿入します。集計行は、該当行の下位レベルの集計行以外の金額を集計します。

項目追加

最後の行に項目を追加します。

項目挿入

指定行に項目を挿入します。

削除

指定された行(単価表, 内訳書, 項目)を削除します。単価表や内訳書の場合その下位層まで削除されます。

↑移動

指定された行(単価表, 内訳書, 項目)を上に移動します。その行が保持する下位層の表も連動しています。

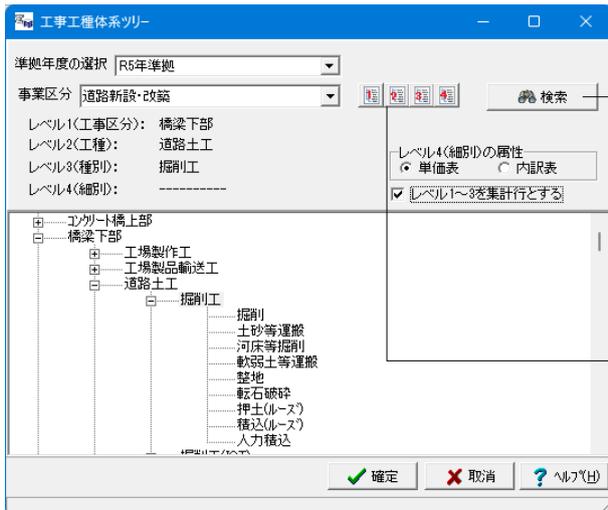
↓移動

指定された行(単価表, 内訳書, 項目)を下に移動します。その行が保持する下位層の表も連動しています。

No.	名称(工事区分)	名称(工程)	名称(種別)	名称(材料)	単位	数量
1	橋梁下部				式	1.00
2		運搬土工			式	1.00
3			掘削工		式	1.00
4			築付盛土工		式	1.00
5		橋台工			式	1.00
6			作業土工		式	1.00
7			照付土工		式	1.00
8			橋台転圧工(A)	鋼管枕 30mmφ×24m埋入径22	本	36.00
9					式	1.00
10			建T式橋台	H4-80m 24-0-25	m3	553.01
11			鉄筋工	SD45 D13 10m未満	t	1.13
12			鉄筋工	SD45 D16~18 10m未満	t	4.15
13			橋台転圧工(A)		式	1.00

工事工種体系ツリー

画面左の「工事工種体系ツリー」をクリックすると、工事工種体系ツリーを表示します。



該当する項を選択し確定すると、工事区分、工種、種別、細別の部分に追加されます。

下記を選択します。
 <準拠年度の選択：R5年準拠>
 <事業区分：道路新設・改築>
 <橋梁下部-道路土工-掘削工>を選択、
 <レベル1~3を集計行とする：チェックを入れる>
 確定ボタンをクリックします。

※<レベル1~3を集計行とする>については、チェックを入れず、属性の個別変更も可能です。

各階層の開閉が可能です。

事業区分、階層を指定して、文字列を検索可能です。



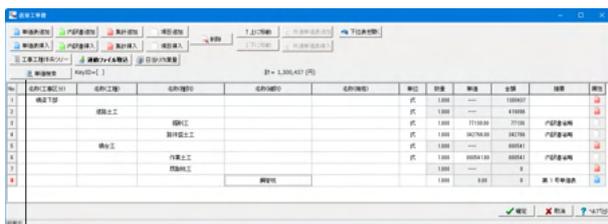
工事区分、工種、種別が追加されます。



名称は必要に応じて変更することが可能です。
 今回は名称(工事区分)を<橋梁下部>へ変更します。

全て<単位：式>

名称(種別)-掘削工
 <属性：項目>右クリック、「行属性変更」にて変更
 <単価：77130>
 <摘要：内訳書省略>



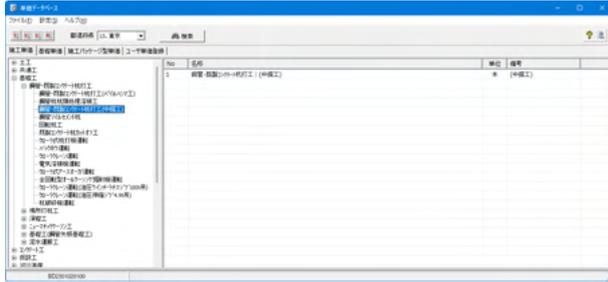
同様に「工事工種体系ツリー」より下記を追加します

橋梁下部-道路土工-路体盛土工
 <属性：項目>
 <単位：式>
 <単価：342766>
 <摘要：内訳書省略>

橋梁下部-橋台工-作業土工
 名称(工種)-橋台工
 <単位：式>
 名称(種別)-作業土工
 <属性：項目>
 <単位：式>
 <単価：880541>
 <摘要：内訳書省略>

橋梁下部-橋台工-既製杭工-鋼管杭

鋼管杭の下位表の入力を行います。
 <名称(細別)：鋼管杭>の行を選択し、<単価検索>をクリックします。



「基礎工」-「鋼管・既製コンクリート杭」-「鋼管・既製コンクリート杭(中掘工)」を選択すると、右側の表に追加されます。名称-「鋼管・既製コンクリート杭(中掘工)」をダブルクリックします。



下記の通り入力を行います。

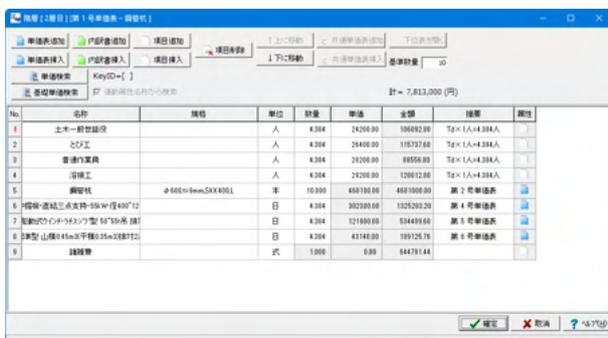
施工単価表

- <継杭の有無:有>
- <杭径区分: $\phi 600\text{mm} \leq D < \phi 700\text{mm}$ >
- <N値範囲: $20 \leq N < 40$ >
- <掘削長区分: $16\text{m} < L \leq 32\text{m}$ >

「転送」ボタンで値を転送すると、「直接工事費」画面に単価表が設定されます。



「下位表を開く」ボタンより、鋼管杭の単価表を開きます。



左図のように設定を行います。

「特殊作業員」「PHC・RC・SC・PHC杭」など不要な項目がある場合には項目削除を行います。

必要に応じて、「項目追加」「単価表追加」します。「単価表追加」した場合は、「下位表を開く」で3層目まで入力します。

確定ボタンをクリックします。

第3章 操作ガイドンス(詳細設計工事発注用積算)

No.	名称(規格)	単位	数量	単価	金額
1	橋脚工	式	1.000	---	2942737
2	橋脚工	式	1.000	---	47600
3	橋脚工	式	1.000	27198.00	27198
4	橋脚工	式	1.000	382768.00	382768
5	橋脚工	式	1.000	---	2607761
6	橋脚工	式	1.000	80004.00	80004
7	橋脚工	式	1.000	---	2812880
8	橋脚工	式	1.000	---	2812880

単価が設定されたことを確認し、名称(規格)と数量を入力します。

<名称(規格): φ600mm,t=9mm 杭長=24m(根入れ長22.7m)>

>

<数量: 36>

標準年度の選択: R5年標準

事業区分: 道路新設・改築

レベル1(工事区分): 橋梁下部
 レベル2(工程): 橋台工
 レベル3(種別): 橋台躯体工(構造物単位)
 レベル4(細別): 逆T式橋台

レベル4(細別)の属性:
 単価表 内訳表
 レベル1~3を集計行とする

確定 取消 ヘルプ(H)

「橋台躯体工(A1)」を追加します。
 「工事工程体系ツリー」より「逆T式橋台」を選択します。

事業区分: 道路新設・改築
 橋梁下部-橋台工-橋台躯体工(構造物単位)-逆T式橋台

No.	名称(規格)	単位	数量	単価	金額
1	逆T式橋台	式	1.000	---	2942737

逆T式橋台を選択後、単価検索を行います。
 橋梁工-橋台工-橋脚工-逆T式橋台〔橋台・橋脚工(1)〕

名称-「逆T式橋台〔橋台・橋脚工(1)〕」をダブルクリックします。

名称: 逆T式橋台
 規格1: 〔橋台・橋脚工(1)〕
 規格2:
 基準数量: 10 単位: m3 1m3当たり: 28,855.00
 合計金額: 288,550.00

No.	名称	単位	数量	単価	金額
1	土木一般世話係	人	0.000	31000.0	0.00
2	特殊作業員	人	0.200	29300.0	5860.00
3	型保工	人	2.200	30900.0	68000.00
4	給水工	人	0.000	31200.0	0.00
5	普通作業員	人	0.000	25400.0	0.00
6	生コンクリート	m3	10.200	20650.0	212670.00
7	生コンクリート攪拌機費	m3	0.000	0.0	0.00
8	コンクリートポンプ運搬費	日	0.000	70200.0	4212.00
9	圧送管積立・撤去費(橋脚・橋台)	m3	0.000	0.0	0.00
10	養生工	m3	0.000	0.0	0.00
11	特殊養生(保固、ウレタン・養生)	m3	0.000	0.0	0.00

転送 閉じる ヘルプ(H)

下記の通り入力を行います。

施工単価表

単価の入力を行います。

<高さ区分: 5m以上7m未満>

<打設量区分: 50m3以上140m3未満>

<生コンクリート規格: 24-8-25(20)(普通)>

「転送」ボタンで値を転送すると、「直接工事費」画面に単価表が設定されます。

No	名称(規格)	単位	数量	単価	金額	種別
1	橋台工	式	1.000	---	24700.00	
2	橋台工	式	1.000	---	4100.00	
3	橋台工	式	1.000	27100.00	27100.00	内訳書あり
4	橋台工	式	1.000	34700.00	34700.00	内訳書あり
5	橋台工	式	1.000	---	20000.00	
6	橋台工	式	1.000	30000.00	30000.00	内訳書あり
7	橋台工	式	1.000	---	20100.00	
8	橋台工	式	1.000	---	20100.00	
9	橋台工	式	1.000	---	20100.00	
10	橋台工	式	1.000	---	20100.00	

「下位表を開く」ボタンより、逆T式橋台の単価表を開きます。

No	名称	規格	単位	数量	単価	金額	種別
1	土木一般労務員		人	0.700	24200.00	16940.00	
2	特殊作業員		人	0.200	21200.00	4240.00	
3	型枠工		人	2.800	25100.00	69280.00	
4	おび工		人	0.800	26400.00	21120.00	
5	普通作業員		人	2.200	20200.00	44440.00	
6	コンクリート	24-8-25	m ³	10.200	13250.00	135150.00	内訳書あり
7	コンクリートポンプ車	30m以内ポンプ式圧送	日	0.040	68040.00	2721.60	第 4 号単価表
8	圧入機組立・撤去費	圧入機組立機1台	m ³	10.000	127.00	1270.00	第 4 号単価表
9	養生工		式	1.000	0.00	0.00	
10	諸雑費		式	1.000	0.00	0.00	

左図のように設定を行います。

「生コンクリート夜間割増額」「養生工」「特殊養生(仮囲い内ジェット養生)」など不要な項目がある場合には項目削除より削除を行います

必要に応じて、「項目追加」「単価表追加」します。
「単価表追加」した場合は、「下位表を開く」で3層目まで入力します。

確定ボタンをクリックします。

No	名称(規格)	単位	数量	単価	金額	種別
1	橋台工	式	1.000	---	31700.00	
2	橋台工	式	1.000	---	4100.00	
3	橋台工	式	1.000	27100.00	27100.00	内訳書あり
4	橋台工	式	1.000	34700.00	34700.00	内訳書あり
5	橋台工	式	1.000	---	20000.00	
6	橋台工	式	1.000	30000.00	30000.00	内訳書あり
7	橋台工	式	1.000	---	20100.00	
8	橋台工	式	1.000	---	20100.00	
9	橋台工	式	1.000	---	20100.00	
10	橋台工	式	1.000	---	20100.00	

単価が設定されたことを確認し、名称(規格)と数量を入力します。

<名称(規格): H=6.86m 24-8-25>
<数量: 153>

標準年度の選択 | R5年標準

事業区分 | 道路新設・改築

レベル1(工事区分): 橋梁下部
 レベル2(工種): 橋台工
 レベル3(種別): 橋台躯体工(構造物単位)
 レベル4(細別): 鉄筋

レベル4(細別の属性)
 単価表 内訳表
 レベル1~3を集計とする

- 橋梁下部
 - 工場製作工
 - 工場製品輸送工
 - 道路土工
 - 軽量盛土工
 - 橋台工
 - 作業土工
 - 作業土工(ICT)
 - 既製杭工
 - 場所打杭工
 - 深礎工
 - ニューマチックポンプ基礎工
 - 橋台躯体工(構造物単位)
 - 逆T式橋台
 - 鉄筋
 - 目地板
 - 水抜パイプ
 - シール材
 - 橋台躯体工

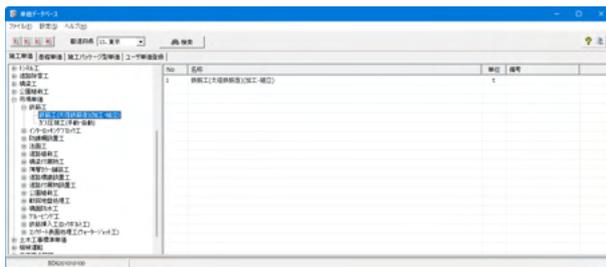
「鉄筋工」を追加します。
「工事種体系ツリー」より「鉄筋」を選択します。

事業区分: 道路新設・改築
橋梁下部-橋台工-橋台躯体工(構造物単位)-鉄筋

第3章 操作ガイドンス(詳細設計工事発注用積算)

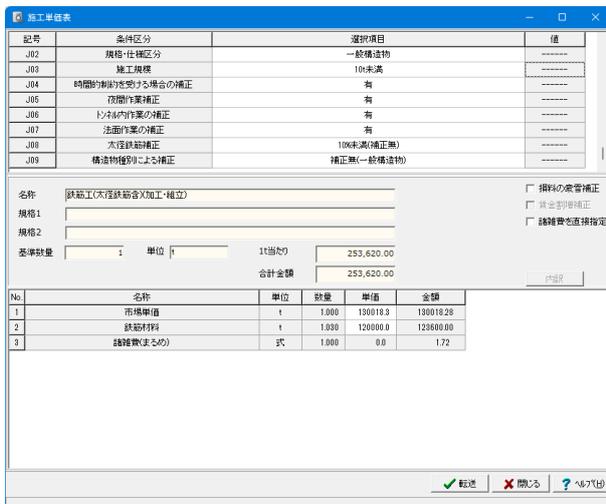


鉄筋工の下位表の入力を行います。
 <名称(細別):鉄筋工>の行を選択し、<単価検索>をクリックします。



「市場単価」-「鉄筋工」-「鉄筋工(太径鉄筋含)(加工・組立)」を選択します。

名称-「鉄筋工(太径鉄筋含)(加工・組立)」をダブルクリックします。



下記の通り入力を行います。

施工単価表

単価の入力を行います。
 <鉄筋材料規格・径:SD345 D13>
 <施工規模:10t未満>

「確定」ボタンで値を転送すると、「直接工事費」画面に単価表が設定されます。



「下位表を開く」ボタンより、鉄筋工の単価表を開きます。



左図のように設定を行います。

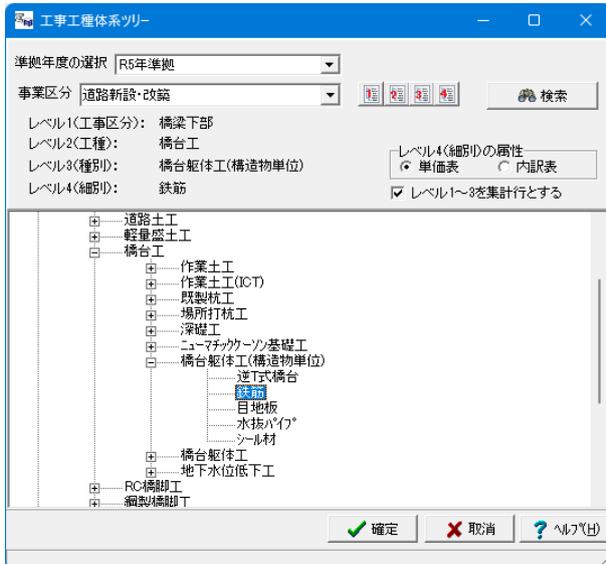
確定ボタンをクリックします。



単価が設定されたことを確認し、名称(規格)と数量を入力します。

<名称(規格):SD345 D13, 10t未満>

<数量:1.100>



「鉄筋工」を追加します。

「工事工程体系ツリー」より「鉄筋」を選択します。

事業区分:道路新設・改築

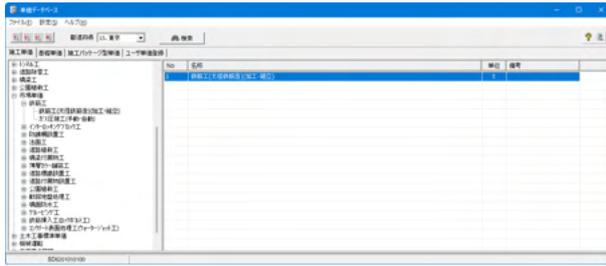
橋梁下部-橋台工-橋台躯体工(構造物単位)-鉄筋



鉄筋工の下位表の入力を行います。

<名称(細別):鉄筋>の行を選択し、<単価検索>をクリックします。

第3章 操作ガイドンス(詳細設計工事発注用積算)



「市場単価」-「鉄筋工」-「鉄筋工(太径鉄筋含)(加工・組立)」を選択します。

名称-「鉄筋工(太径鉄筋含)(加工・組立)」をダブルクリックします。



下記の通り入力を行います。

施工単価表

単価の入力を行います。

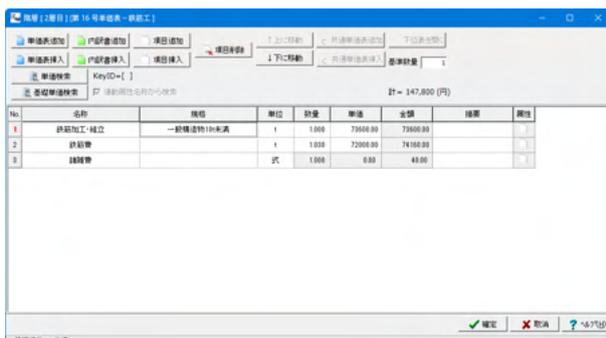
<鉄筋材料規格・径: SD345 D16~D25>

<施工規模: 10t未満>

「転送」ボタンで値を転送すると、「直接工事費」画面に単価表が設定されます。



「下位表を開く」ボタンより、鉄筋工の単価表を開きます。



左図のように設定を行います。

確定ボタンをクリックします。

No.	名称(規格)	単位	数量	単価	金額	備考
1	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
2	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
3	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
4	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
5	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
6	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
7	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
8	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
9	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
10	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
11	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
12	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
13	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
14	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
15	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
16	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
17	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
18	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
19	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
20	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
21	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
22	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
23	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
24	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
25	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
26	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
27	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
28	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
29	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	
30	橋脚工	橋脚工	1.000	---	0.000000	

単価が設定されたことを確認し、名称(規格)と数量を入力します。

<名称(規格): SD345 D16~15, 10t未満>
<数量: 4.160>

また、「橋台躯体工(構造物単位)」の名称(種別)を変更します。
<橋台躯体工(A1)>

標準年度の選択: R5年標準

事業区分: 道路新設・改築

レベル1(工事区分): 橋梁下部
レベル2(工程): 橋台工
レベル3(種別): 橋台躯体工(構造物単位)
レベル4(細別): 逆T式橋台

レベル4(細別)の属性
 単価表 内訳表
 レベル1~3を集計行とする

橋梁下部
 工機製作工
 工機製品輸送工
 道路土工
 軽量盛土工
 橋台工
 作業土工
 作業土工(ICT)
 既製杭工
 場所打杭工
 深礎工
 ニューマチックポン基礎工
 橋台躯体工(構造物単位)
 逆T式橋台
 鉄筋
 目地板
 水抜パイプ
 シール材
 橋台躯体工

確定 取消 ヘルプ(H)

「橋台躯体工(A2)」を追加します。
「工事工程体系ツリー」より「逆T式橋台」を選択します。

事業区分: 道路新設・改築
橋梁下部-橋台工-橋台躯体工(構造物単位)-逆T式橋台

No.	名称	単位	数量	単価	備考
1	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
2	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
3	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
4	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
5	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
6	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
7	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
8	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
9	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
10	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
11	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
12	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
13	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
14	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
15	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
16	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
17	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
18	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
19	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
20	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
21	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
22	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
23	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
24	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
25	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
26	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
27	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
28	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
29	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	
30	逆T式橋台	m3	4.160	20850.00	

鉄筋工の下位表の入力を行います。
<名称(細別): 逆T式橋台>の行を選択し、<単価検索>をクリックします。

橋梁工-橋台・橋脚工-逆T橋台 [橋台・橋脚工(1)]

名称-「逆T式橋台 [橋台・橋脚工(1)]」をダブルクリックします。

記号	条件区分	逆打項目	値
J01	高さ区分	5m以上7m未満	---
J02	打設量区分	140m3以上260m3未満	---
J03	生コングレード	21-0-25(普通)	---
J04	養生工	一般養生	---
J05	特別養生	特別養生(凍害)	---
J06	雑工費	基礎材・均土・均土	---
J07	生コングレードの凍害対策の有無	無	---
J08	圧送管補立・撤去の有無	無	---

名称: 逆T式橋台
規格1: [橋台・橋脚工(1)]
規格2: []
基準数量: 10 単位: m3 1m3当たり: 27,355.00
合計金額: 273,550.00

No.	名称	単位	数量	単価	金額
1	土木一般世話役	人	0.000	31000.00	0.00
2	特殊作業員	人	0.200	26900.00	5380.00
3	足立工	人	1.700	30900.00	51530.00
4	足立工	人	0.000	31200.00	0.00
5	普通作業員	人	0.000	25400.00	0.00
6	生コングレード	m3	10.200	20850.00	212670.00
7	生コングレード控除材料費	m3	0.000	0.00	0.00
8	コンクリートポンプ車運転費	日	0.000	70200.00	4212.00
9	圧送管補立・撤去費(橋脚・橋台)	m3	0.000	0.00	0.00
10	養生工	m3	0.000	0.00	0.00
11	特殊養生(保固、リソレチル養生)	m3	0.000	0.00	0.00

転送 閉じる ヘルプ(H)

下記の通り入力を行います。

施工単価表

単価の入力を行います。

<高さ区分: 5m以上7m未満>
<打設量区分: 140m3以上260m3未満>

No	名称	単価
6	生コンクリート	20850.00

「転送」ボタンで値を転送すると、「直接工事費」画面に単価表が設定されます。



「下位表を開く」ボタンより、逆T式橋台の単価表を開きます。



左図のように設定を行います。

「生コンクリート夜間割増額」「養生工」「特殊養生(仮囲い内ジェット-養生)」など不要な項目がある場合には項目削除より削除を行います。

必要に応じて、「項目追加」「単価表追加」します。

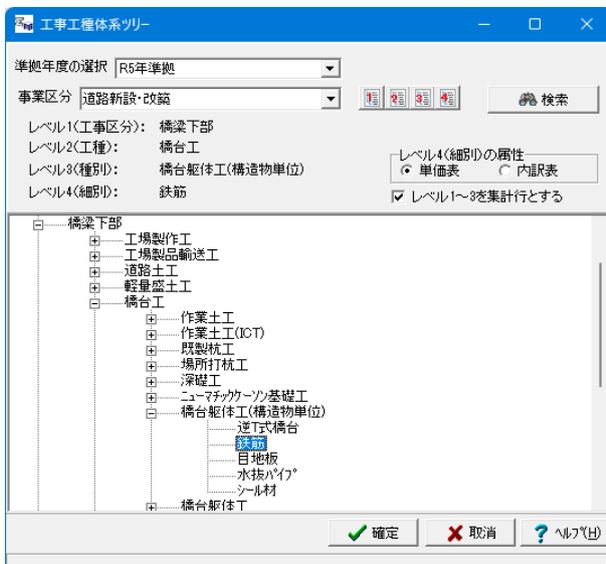
「単価表追加」した場合は、「下位表を開く」で3層目まで入力します。

確定ボタンをクリックします。



単価が設定されたことを確認し、名称(規格)と数量を入力します。

<名称(規格): H=7.576m 24-8-25>
<数量: 167>



「鉄筋工」を追加します。
「工事工程体系ツリー」より「鉄筋」を選択します。

事業区分: 道路新設・改築
橋梁下部-橋台工-橋台躯体工(構造物単位)-鉄筋



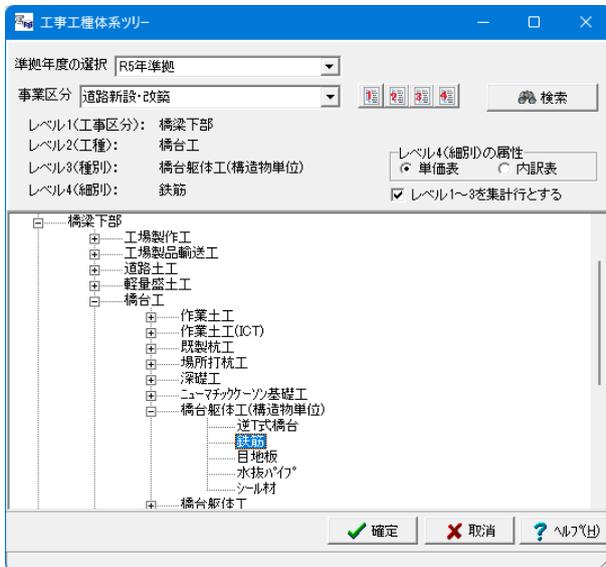
左図のように設定を行います。

確定ボタンをクリックします。



単価が設定されたことを確認し、名称(規格)と数量を入力します。

<名称(規格): SD345 D13, 10t未満>
<数量: 1.360>

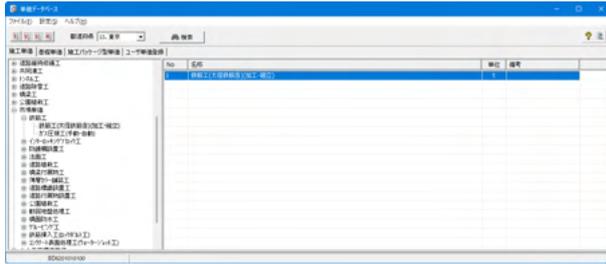


「鉄筋工」を追加します。
「工事工程体系ツリー」より「鉄筋」を選択します。

事業区分: 道路新設・改築
橋梁下部-橋台工-橋台躯体工(構造物単位)-鉄筋



鉄筋工の下位表の入力を行います。
<名称(細別): 鉄筋>の行を選択し、<単価検索>をクリックします。



「市場単価」-「鉄筋工」-「鉄筋工(太径鉄筋含)(加工・組立)」を選択します。

名称-「鉄筋工(太径鉄筋含)(加工・組立)」をダブルクリックします。



下記の通り入力を行います。

施工単価表

単価の入力を行います。

<鉄筋材料規格・径:SD345 D16~D25>

<施工規模:10t未滿>

「転送」ボタンで値を転送すると、「直接工事費」画面に単価表が設定されます。



「下位表を開く」ボタンより、鉄筋工の単価表を開きます。

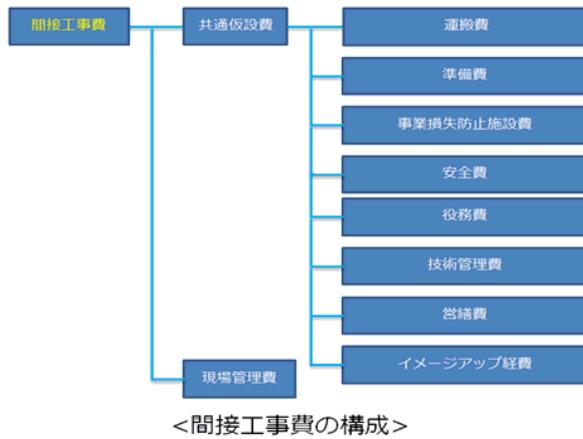


左図のように設定を行います。

確定ボタンをクリックします。

1-4 間接工事費

間接工事費の構成は、次の通りです。

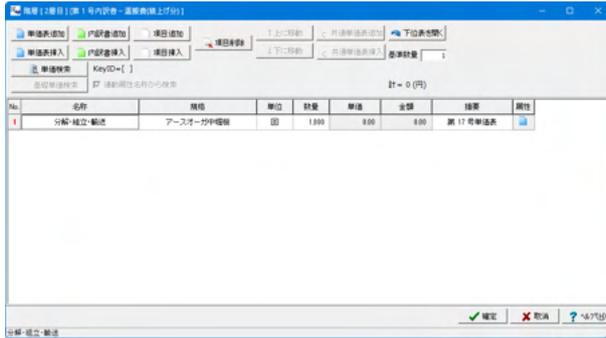


左の工事費用を本画面で積み上げていきます。[内訳書]及び[単価表]は下位表を保持でき、最大5階層目まで入力が可能です。[項目]は下位表を保持できません。基本的な入力方法については、直接工事費用の入力操作と同じです。共通仮設費(運搬費、準備費、事業損失防止施設費、安全費、役務費、技術管理費、営繕費、イメージアップ費)毎に分けて入力します。イメージアップ費以外の共通仮設費は、別途求めて頂き、直接経費を入力してください。なお、イメージアップ経費(内部計算or直接指定)及び現場管理費(内部計算)で算出しています。

ツリーの「間接工事費(運搬費)」をクリックします。

直接工事費と同様に項目「共通仮設費(積上げ分)」内訳書「運搬費(積上げ分)」を積み上げていきます。

運搬費(積上げ分)の下位表を開く指定された行が単価表や内訳書を下位層に持つ場合に有効になり、下位の入力表を開く事ができます。※指定された行を選択し、その状態から右ポップアップメニュー(下位表を開く)でも下位の入力表が開く事ができます。



単価表を追加します。

<名称:分解・組立・輸送>
 <規格:アースオーガ中掘機>
 <単位:回>
 <数量:1,000>
 下位表を開きます。



項目を追加します。

No.1
 <名称:特殊作業員>
 <単位:人>
 <数量:23.500>
 <単位:23200.00>
 No.2
 <名称:分解組立用クレーン賃料>
 <単位:日>
 <数量:5.600>
 <単位:76000.00>
 <摘要:「建設物価」P791>
 No.3
 <名称:運搬費等>
 <単位:式>
 <数量:1.000>
 <単位:1436784.00>
 <摘要:970,800円×1.48>
 No.4
 <名称:諸雑費>
 <単位:式>
 <数量:1.000>
 <単位:0.00>
 <金額:416.00>
 <摘要:端数処理>

確定ボタンをクリックします。



単価表を追加します。

<名称:分解・組立・輸送>
 <規格:クロークレーン油圧駆動式>
 <単位:回>
 <数量:1,000>
 下位表を開きます。

No.	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	属性
1	特殊作業員		人	5,500	23200.00	127600.00		
2	分解組立用クレーン賃料		日	1,500	42400.00	63600.00	「建設物価」P791	
3	運搬費等		式	1,000	717000.00	717000.00		
4	諸雑費		式	1,000	0.00	0.00	端数処理	

項目を追加します。

No.1

<名称:特殊作業員>

<単位:人>

<数量:5,500>

<単位:23200.00>

No.2

<名称:分解組立用クレーン賃料>

<単位:日>

<数量:1,500>

<単位:42400.00>

<摘要:「建設物価」P791>

No.3

<名称:運搬費等>

<単位:式>

<数量:1,000>

<単位:717000.00>

No.4

<名称:諸雑費>

<単位:式>

<数量:1,000>

<単位:0.00>

<金額:0.00>

<摘要:端数処理>

確定ボタンをクリックします。

No.	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	属性
1	分解・組立・輸送	アースオーガ付増設	回	1,000	240000.00	240000.00	第 17 号単価表	
2	分解・組立・輸送	クレーン(吊り駆動式)	回	1,000	900200.00	900200.00	第 18 号単価表	
3	仮設材運搬費	(鋼矢板等)	t	70,000	5000.00	350000.00		
4	仮設材積み込み取卸し費	(鋼矢板等)	t	70,000	3000.00	210000.00		

No.3

<名称:仮設材運搬費>

<規格:(鋼矢板等)>

<単位:t>

<数量:70,000>

<単位:5000.00>

No.4

<名称:仮設材積み込み,取卸し費>

<規格:(鋼矢板等)>

<単位:t>

<数量:70,000>

<単位:3000.00>

1-5 一般管理費

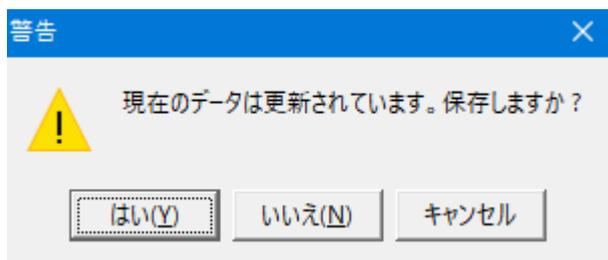
	共通仮設費	現場管理費	一般管理費
	対象額	直接工事費+共通仮設費=純工事費	純工事費+現場管理費=工事原価
桁等購入費	×	○	○
(支給品費等)桁等購入費	×	○	×
(支給品費等)一般材料費	○	○	×
(支給品費等)別途製作の製作費	×	×	×
(支給品費等)電力	○	○	×
無償貸付機械評価額	○	○	×
現場養生品	×	×	×
(ガム工事)支給電力料(基本料金を含む)	×	×	×
(ガム工事)無償貸付機械評価額	○	×	×

一般管理費等は、一般管理費及び付加利益の額の合計額とし、工事原価ごとに求めた一般管理費率(Gp)を、当該工事原価に乗じて得た額の範囲内として次式で算定します。

一般管理費等費=工事原価(Cp)×一般管理費等率(Gp)

一般管理費等率(Gp)={一般管理費等率(標準値)×補正值}+(契約保証補正值「必要に応じて計上」)

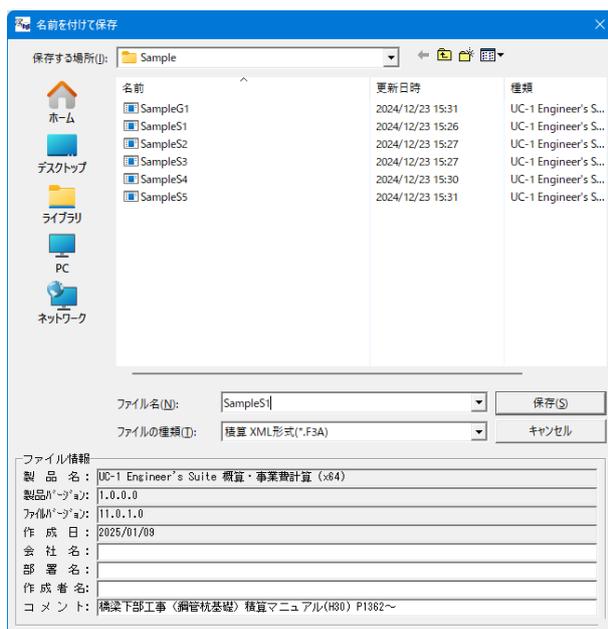
3 データ保存



保存を行わずにプログラムを終了させようとした場合、左図のような確認メッセージが表示されます。

保存をする場合は「はい」を選択し、保存場所・ファイル名を指定し保存します。

※「いいえ」を選択すると、データは保存されず終了しますのでご注意ください。



「ファイル」-「名前を付けて保存」からデータを保存します。既存のデータに上書きする場合は「ファイル」-「上書き保存」を選択します。

第4章 積算関連設定

1 設計書の取込み

	A	B	C	D	E	F	G
1							平成 年 月 日
2							
3					住所		
4					〒		
5					代表者名		
6							
7					工事費内訳書		
8	工事名	平成の年	XXXXXX	XXXXXX	設計図書		
9	設計図書	工事区分・工種・種別			単位	数量	金額(単位:円)
10	設計土工				円	1	0
11	躯体土工				円	1	0
12	躯体(積入土)				円	1	0
13	躯体(積入土)				m ³	10	
14	躯体				m ³	10	
15	法面工						
16	植生工				円	1	0
17	植生コート				円	1	0

設計書の取込み

既存の設計書ファイル(エクセル「xls、xlsx」及びPDF)を取込むことができます。

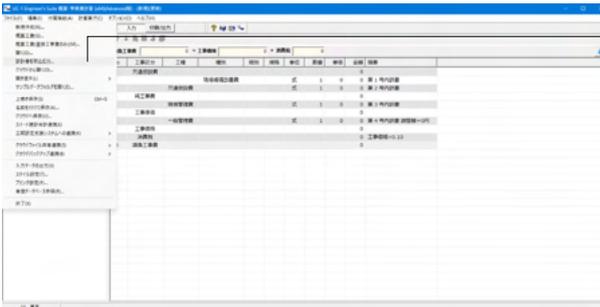
※重要: エクセル取込は、Microsoft Office Excelのインストールが必須となります。

また、PDF取込は、Adobe Readerではなく、Adobe Acrobat書込ソフトのインストール及びエクセルのインストールが必須となります。

官工事により、入札のために設計書(金抜き)が一般公開されます。(例: エクセル表示)

その設計書を見ながら、各称(工事区分・工種・種別・細別)、単位、数量をソフト側に入力しても問題はありますが、手入力を行う分ミスや手間が多くなります。

その手間を効率的に行うための機能が、「設計書インポート」となります。



本ソフトにおいて、既存の設計書を取込む手順を紹介します。

①メニュー「ファイル(F)-設計書を取込む(I)」を実行します。または、スピードボタンをクリックします。

②設計書(*.xls, *.xlsx, *.pdf)を選択して開くを実行します。

③プログラム内で自動判別(認識)可能な部分を抽出し読取り状況を表示します。積算本体側に取込む前に、確認(変更)して確定します。

会社情報の項目名は、デフォルトで「県知事許可番号」「会社名」「郵便番号」「電話番号」「ファックス」「メール」「住所」「担当者」を用意しています。デフォルトボタンを押下すると、その項目名に上記名称がセットされます。

※重要: 複雑な設計書の場合、自動判別で抽出が上手くいかない場合があります。その場合は、メニュー「オプション-設計書項目列設定」を変更する事で、上手く読み取れる場合があります。



④取込直後のメイン画面は、左の通りです。

直接工事費画面において、細別の項の下位表に必要な項目(機材)を積上げて行く事で、入札の見積書を簡単に作成することができます。

2 UC-1スイート積算連動インポート

弊社UC-1Engineer'sSuite製品から設計で使用された材料の数量を、ファイル(*.FLK)経由で、本製品に取り込む機能です。

No.	名称(工種区分)	名称(工種)	名称(種別)	名称(単位)	単位	数量	単価	金額	備注
1	基礎工事	基礎工事			式	1.000	---	47264.26	
2					式	1.000	---	47000.00	
3					式	1.000	27700.00	27700.00	内訳書参照
4					式	1.000	362700.00	362700.00	内訳書参照
5					式	1.000	---	471000.00	
6					式	1.000	40000.00	40000.00	内訳書参照
7					式	1.000	---	201000.00	
8					式	1.000	---	47000.00	
9					式	1.000	---	47000.00	
10					式	1.000	---	47000.00	
11					式	1.000	---	47000.00	
12					式	1.000	---	47000.00	
13					式	1.000	---	47000.00	
14					式	1.000	---	47000.00	
15					式	1.000	---	47000.00	
16					式	1.000	---	47000.00	
17					式	1.000	---	47000.00	
18					式	1.000	---	47000.00	

直接工事費画面にある「連動ファイル取込」を実行すると、各UC-1製品から出力された材料名称と数量を取込む事ができます。

No.	名称(工種区分)	名称(工種)	名称(種別)	名称(単位)	単位
29					m2
30		内装工事			式
31			土留・雨樋切工		式
32			土留		式
33			雨樋取工		式
34			雨樋取工		式
35			雨樋取工		式
36			雨樋取工		式
37			雨樋取工		式
38			雨樋取工		式

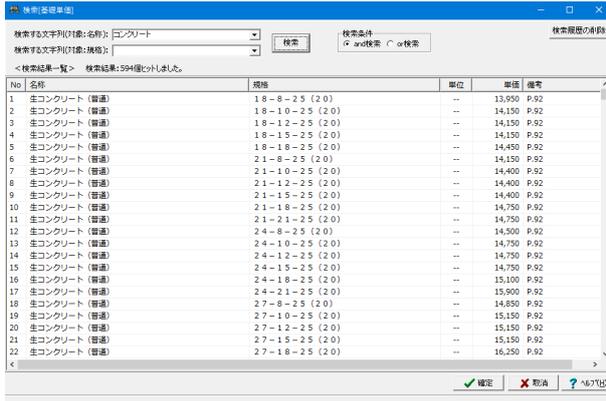
名称(種別)に「内訳書」として取込みます。内訳書の内容は各種製品毎に異なります。例として擁壁の図面から出力したケースを紹介します。設計で使用されたコンクリート、型枠、鉄筋が数量算出されます。階層構造になっているので、項目行を選択し、下位表を開くボタンを実行して、該当項目に属する項目を表示させます。(階層[2層目]、階層[3層目])基礎単価検索ボタンより、単価データベースから該当する単価を見つけて転送する事で、数量と単価から金額が算出され、コンクリート工の単価表として集計されます。

No.	名称	単位	数量	単価	金額	備注
1	コンクリート	式	1.000	0.0	0.0	
2	型枠	式	1.000	0.0	0.0	
3	鉄筋	式	1.000	0.0	0.0	

下位表を開くボタンを実行して、該当項目に属する項目を表示させます。

No.	名称	単位	数量	単価	金額	備注
1	コンクリート	m3	2.000	0.0	0.0	
2	型枠	m2	2.000	0.0	0.0	
3	鉄筋	t	0.000	0.0	0.0	

基礎単価検索ボタン
単価は直接入力ほかに単価データベースから設定することもできます。



検索ボタンを押して一覧の表示を行います。

対応した単価を選択し、挿入ボタンをクリックします。

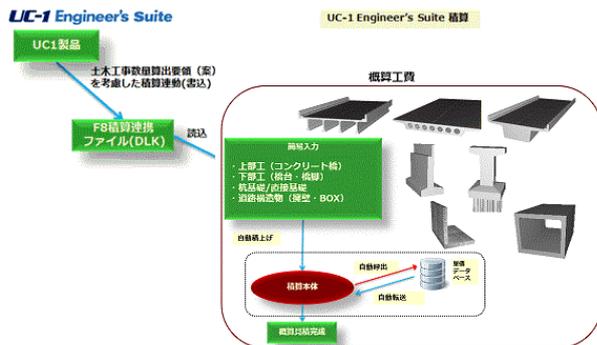


単価が挿入されました。

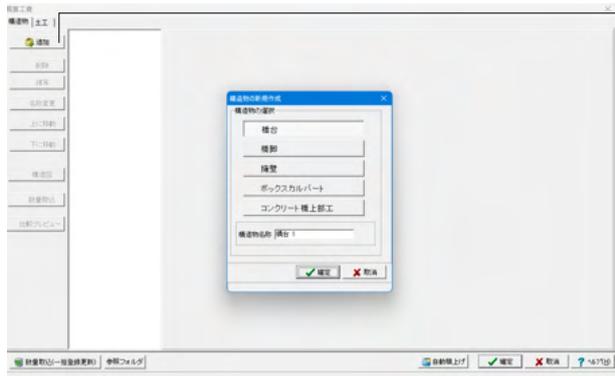
このようにデータベースから単価の入力をする方法もあります。

3 概算工費

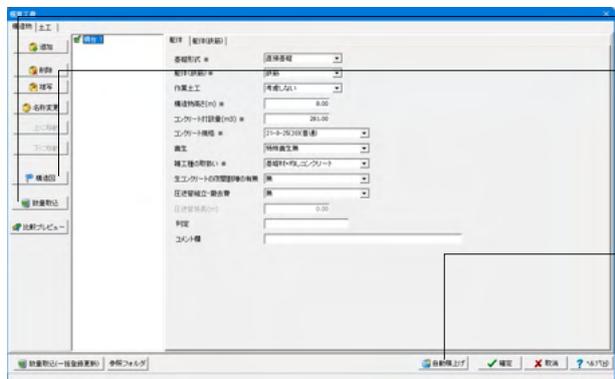
橋梁下部工(橋台・橋脚)や橋梁上部工(コンクリート上部工)、道路構造物(擁壁・BOXカルバート)の簡単な条件を選択することで自動的に概算工事費の見積もりが出来る機能です。また、対応しているUC-1製品(橋台・橋脚・擁壁・BOX)からファイル(*.DLK) 経由で、材料の数量や構造図などを本製品に取り込むことも可能です。



付属機能から概算工費を選択します。



基本条件を設定後、積算を行う構造物の選択をします。



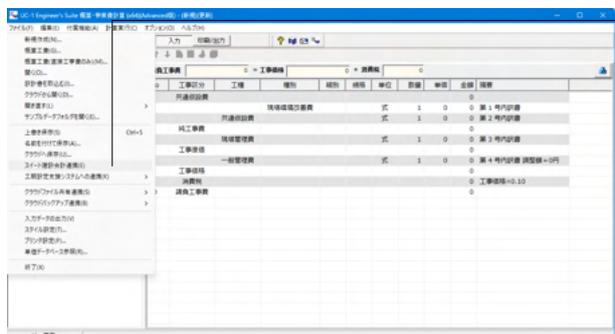
「数量取込」より連携するデータ(*.DLK)を選択します。

「構造図」にて取り込んだデータの確認をすることが出来ます。

自動積み上げを行うことで概算工事費が計算されます。

4 スイート建設会計との連携

設計(計画) → 数量算出 → 積算 → スイート建設会計へ連携することで、一連のCIMの実現に向けて加速させる事ができます。



ファイル-スイート建設会計連携をクリックします。

第4章 積算関連設定

品目	工事名	単位	数量	単価	金額
1	基礎工事	延	1	417,200.00	417,200.00
2	基礎工事	延	0	417,200.00	0.00
3	基礎工事	延	1	191,200.00	191,200.00
4	基礎工事	延	0	191,200.00	0.00
5	基礎工事	延	1	262,700.00	262,700.00
6	基礎工事	延	0	262,700.00	0.00
7	基礎工事	延	1	880,240.00	880,240.00
8	基礎工事	延	0	880,240.00	0.00
9	基礎工事	延	1	1,000,000.00	1,000,000.00
10	基礎工事	延	0	1,000,000.00	0.00
11	基礎工事	延	1	1,000,000.00	1,000,000.00
12	基礎工事	延	0	1,000,000.00	0.00
13	基礎工事	延	1	1,000,000.00	1,000,000.00
14	基礎工事	延	0	1,000,000.00	0.00
15	基礎工事	延	1	1,000,000.00	1,000,000.00
16	基礎工事	延	0	1,000,000.00	0.00
17	基礎工事	延	1	1,000,000.00	1,000,000.00
18	基礎工事	延	0	1,000,000.00	0.00
19	基礎工事	延	1	1,000,000.00	1,000,000.00
20	基礎工事	延	0	1,000,000.00	0.00
21	基礎工事	延	1	1,000,000.00	1,000,000.00
22	基礎工事	延	0	1,000,000.00	0.00
23	基礎工事	延	1	1,000,000.00	1,000,000.00
24	基礎工事	延	0	1,000,000.00	0.00
25	基礎工事	延	1	1,000,000.00	1,000,000.00
26	基礎工事	延	0	1,000,000.00	0.00
27	基礎工事	延	1	1,000,000.00	1,000,000.00
28	基礎工事	延	0	1,000,000.00	0.00
29	基礎工事	延	1	1,000,000.00	1,000,000.00
30	基礎工事	延	0	1,000,000.00	0.00
31	基礎工事	延	1	1,000,000.00	1,000,000.00

「スイート建設会計側へ連携状況が正常に完了しました。」と表示されます。
OKをクリックします。

スイート建設会計



工事機能-設定より「Suite積算連携」を選択します。

開始日時	工事名称(Suite積算)	積算工事費(税込)	
2018/10/29 07:35:05	工事所	84,000	再読み込み
2018/10/30 09:18:17	橋梁下部工事	74,382,000	再読み込み
2018/10/30 11:51:14	工事所	84,000	再読み込み
2018/11/16 12:45:34	工事所	93,009,600	再読み込み
2018/11/22 04:23:17	PC橋梁設工事	33,474,000	再読み込み
2018/11/22 04:24:29	橋梁下部工事1	74,350,500	再読み込み
2018/11/22 11:43:24	橋梁下部工事	74,350,500	再読み込み
2018/11/28 13:25:37	橋梁伸縮工事	31,132,500	再読み込み

一覧表の上に表示されている「未連携データ」「工事連携状況」が表示されますので、「未連携データ」をクリックします。

送信したデータが表示されていない場合は [再読み込み] ボタンをクリックします。
取込みは1回のみで、再度取り込みを行うには、Suite積算もう一度送信します。

取込む工事の右端の [取り込み] ボタンをクリックします。



「工事選択」画面が表示されます。
取込む工事をクリックし、[決定] ボタンをクリックします。

読み込まれたデータはスイート建設会計の実行予算に反映されます

Suite積算項目	スイート建設会計の費目
直接工事費	材料費
共通仮設費・現場管理費・一般管理費	経費

【実行予算管理】

スイート建設会計 株式会社フォーラムエイト / FORUM8 株式会社 マニュアルダウンロード 戻る 終了

日々の帳簿 工事帳簿 実行予算管理

会計年度: 東京 工事種別: 1011 表示

工事名称: 操作ガイダンス
 工事場所: 東京都
 発注者名: 2018/11/01 施工日: 2018/11/30 完成予定日: 2019/02/01

※ 予算入力方法を要すると、登録されている欄はクリアされます。元に戻す場合は表示ボタンをクリックしてください。
 ※ 登録内容で登録すると、所定のデータは登録されます。

登録入力方法: * 概算管理 ② 科目別管理

材料費	労務費	外注費	経費	工事集約合計
17,849,433	0	0	11,800,567	29,650,000

登録

工事連携状況

スイート建設会計 株式会社フォーラムエイト / FORUM8 株式会社 マニュアルダウンロード 戻る 終了

日々の帳簿 工事帳簿 Suite積算連携

非連携データ 工事連携状況

スイート建設会計の工事と積算データの連携機能を表示しています。
 連携中の工事は「連携解除」ボタンが表示されます。
 連携を解除する場合は「連携解除」ボタンをクリックしてください。

工事種別	工事名称	
1000	東京工事A	連携解除
1011	操作ガイダンス	連携解除
2000	既存工事B	連携解除
3000	新規工事C	連携解除
5000	東京工事D	連携解除
6000	工事ガイダンス	連携解除
6001	DF	連携解除

工事機能-設定「Suite積算連携」を選択し、「工事連携状況」タブをクリックします。

スイート建設会計の工事と積算データの連携情報が表示されます。読み込まれたデータはスイート建設会計の実行予算に反映されます。

連携中の工事は「連携解除」ボタンが表示されます。連携を解除するには「連携解除」ボタンをクリックします。

UC-1 Engineer's Suite 概算・事業費計算 操作ガイド

2025年1月 第1版

発行元 株式会社フォーラムエイト
〒108-6021 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟21F
TEL 03-6894-1888

禁複製

お問い合わせについて

本製品及び本書について、ご不明な点がございましたら、弊社、「サポート窓口」へお問い合わせ下さい。

なお、ホームページでは、Q&Aを掲載しております。こちらもご利用下さい。

ホームページ www.forum8.co.jp

サポート窓口 ic@forum8.co.jp

FAX 0985-55-3027

UC-1 Engineer's Suite 概算・事業費計算

操作ガイドンス

www.forum8.co.jp

 **FORUM8**
フォーラムエイト®